千葉市美術館所蔵作品展

平成七・八年度新収蔵作品展（前期）

千葉市美術館

伊藤若冲「鸚鵡図」

平成七・八年度新収蔵作品展（前期）出品リスト

No.	（作者）	（作品）	（形状）	（縦×横、cm）	（年代）
1．千葉市を中心とした房総ゆかりの作家・作品					
1	鈴木鵞湖	西園雅集図	絹本着色６曲１双屏風	各149.5×337	文久１（1861）
2	石井林響	緑蔭吹笛図	絹本着色掛軸	112.3×69.5	明治(1868～1912)後期(寄託品)
3	橋本興家	牛（房州江見海岸）	本版多色摺	39.5×54.7	明治27（1952）
2．近世・近代の絵画と版画					
（1）近世・近代絵画					
4	菱川師宣	天人採蓮図	絹本着色掛軸	37.1×59.5	元禄（1688～1704）初期
5	英一蝶	立美人図	絹本着色掛軸	71.5×29.8	元禄（1688～1704）後期
6	伊藤若冲	寿老人・孔雀・菊図	紙本墨画掛軸３幅対	各110×29.4	宝暦（1751～64）中・後期
7	伊藤若冲	鸚鵡図	絹本着色掛軸	107.6×49.1	宝暦後期～明和（1764～72）期
8	曾我蕭白	山水図（林和靖図）	絹本墨画掛軸	44.6×67.9	安永（1772～1781）期
9	岸駒	鶴図	絹本着色掛軸	108.2×42.5	天明２（1782）
10	長澤蘆雪	松竹梅図	絹本着色掛軸３幅対	各101.4×31.9	寛政（1789～1801）初期
11	司馬江漢	犬のいる風景図	絹本油彩額装	30×106.2	寛政（1789～1801）末期
12	祇園井特	貴人図	絹本着色２曲１隻屏風	153×160	文化（1804～18）期
13	今村紫紅	時宗	絹本着色額装	145.9×86.1	明治41（1908）（寄託品）
（2）洋風版画・浮世絵版画					
14	松好斎半兵衛	放駒長吉　嵐ひな助	細判錦絵	32×14.1	寛政９（1797）
15	亜欧堂田善	真洲先稲荷隅田川眺望	銅版画	10.3×15	文化（1804～18）期
16	亜欧堂田善	自上野望山下	銅版画	10.3×15	文化（1804～18）期
17	亜欧堂田善	霊岸嶋湊之図	銅版画	10.3×15	文化（1804～18）期
18	葛飾北斎	冨嶽三十六景　神奈川沖浪裏	横大判錦絵	24.8×37.3	天保２～３（1831～２）
19	小林清親	猫と提灯	横大々判錦絵	34.1×47.3	明治10（1877）
20	山本昇雲	今すがた　一枝	大判錦絵	37.2×24.9	明治42（1909）
（3）絵入版本					
21	菱川師宣	恋のみなかみ	美濃判墨摺絵本	27.2×18.9	天和３（1683）
22	喜多川歌麿	絵本駿河舞	半紙判墨摺絵本３冊	各21.8×15.5	寛政２（1790）
23	喜多川歌麿	青楼絵本年中行事	半紙判彩色摺絵本２冊	各22.7×15.9	享和４（1804）
24	亜欧堂田善	青蔭集	句集一冊（銅版画）	22.9×16.0	文化11（1814）
（4）近代版画					
25	戸張孤雁	千住大橋の雨	木版多色摺	49.2×36.2	大正２？（1913）
26	竹久夢二	港屋絵草紙店	木版多色摺	31.9×23.2	大正３（1914）
27	フリッツ・カペラリー	猫を抱く少女	木版多色摺	21×31.5	大正４（1915）
28	鶴田吾郎	印度の女	木版多色摺	27×19	大正５（1916）
29	橋口五葉	薄衣を手に立つ女	鉛筆デッサン	51×34.2	大正（1912～1926）中期
30	伊東深水	多摩川原の夕	木版多色摺	20.4×30.4	大正６（1917）
31	森谷利喜雄	塩竈－漁村	木版多色摺	16.8×19.6	大正６（1917）
32	北野恒富	廓の春秋　冬　鏡の前	木版多色摺	39.3×26.2	大正８（1919）
33	山本鼎	高原の路	ジンク凸版・木版併用	20.4×30	大正８（1919）
34	川瀬巴水	月の松島	木版多色摺	16.6×23.2	大正８（1919）
35	上阪雅人	田園風景	木版多色摺	29.9×47.2	大正９～12？（1920～３）
36	名取春仙	五世中村歌右衛門の淀君	木版多色摺	37.7×25.6	大正14～昭和４（1925～29）
37	川上澄生	自鳴鐘と喇叭之図	木版墨摺	24.4×14.8	大正15（1926）
38	田辺至	静物	エッチング	17.8×24.3	大正15（1926）
39	名取春仙	五世市川鬼丸のお富	木版多色摺	38×25.5	昭和２（1927）
40	織田一磨	画集銀座の内　酒場フレデルマウス	石版多色摺	26.7×17.2	昭和３（1928）
41	織田一磨	画集銀座の内　銀座バッカス	石版多色摺	17.2×28.2	昭和４（1929）
42	織田一磨	画集銀座の内　屋台店	石版多色摺	17.2×28.4	昭和４（1929）
43	畦地梅太郎	橋のある風景	木版多色摺	40.6×50.2	昭和４？（1929）
44	畦地梅太郎	橋のある風景	木版多色摺	39.4×44.7	昭和４？（1929）
45	深沢索一	新東京百景　築地	木版多色摺	17.7×23.9	昭和４（1929）
46	小野忠重	施療病院の廊下	木版多色摺	21.2×17.4	昭和４（1929）
47	平塚運一	雪のニコライ	木版多色摺	20.9×30.2	昭和５（1930）
48	小早川清	近代時粧ノ内　三　爪	木版多色摺	46.2×27	昭和５（1930）
49	小野忠重	暴力団	木版墨摺	23.7×32.3	昭和８（1933）
50	関野準一郎	堤河畔	エッチング	36.1×44.6	昭和11（1936）
51	恩地孝四郎	白亜（蘇州所見）	木版多色摺	84.4×60	昭和15（1940）

※都合により展示作品の変更を行う場合があります。

作品解説

1　鈴木鵞湖「西園雅集図」

幕末の南画家として活躍した鈴木鵞湖（1816～1870）の作品。鈴木鵞湖は下総国金堀村（現在の船橋市金堀町）出身である。近代美術史上で活躍した石井柏亭・鶴三兄弟の祖父にあたる。

「西園雅集」は中国北宋の時代に蘇東坡・王晋卿・円通大師（大江定基）・李公麟・米芾らが西園に雅遊したという故事に基づく。谷文晁の同じ主題の作品の図柄を屏風に構成しなおしている。

（伊藤紫織）

9　岸駒「鶴図」

江戸時代後期の京都画壇で活躍した岸駒（1749または1756～1838）の作品。岸駒は、円山応挙の画風をベースに長崎派のスタイルを取り入れて独自の画風を確立した。この時期は画家として評判が出始めたころである。

松に鶴は吉祥の画題でよくあるが、この作品では雪に鶴の足が半分埋もれるところや、雪から松の葉がのぞく表現など細部に至るまで見ごたえがある。

（伊藤紫織）

18　葛飾北斎「冨嶽三十六景　神奈川沖浪裏」

葛飾北斎（1760～1849）の代表作「冨嶽三十六景」シリーズの中でも、「神奈川沖浪裏」はあまりに有名である。荒れ狂う波の力に対して、必死に舟を操ろうとする人間たちは無力な存在にすぎない。雪をいただいた富士は、眼前のドラマをなお冷静に正視しているかのようである。自然のダイナミズムと人間のはかなさ、そびえ立つような波の躍動感と富士山の静けさ…スケールの大きな対比が見る者を圧倒する。

（田辺昌子）

19　小林清親「猫と提灯」

提灯の中に逃げ込んだネズミの尻尾を素早く押さえる猫が、暗がりに浮かび上がる迫真の描写。明治10年の第一回内国勧業博覧会への出品作で、木版画でありながら銅版画のような網目や点を刻み込み、手間のかかる工程をいくつも重ねて油絵のようなイメージを完成した、入魂の一作である。清親は「光線画」と称する東京名所絵を前年より発表し、光と影の表現に新境地を開いた。それを導いた情報源の一つであったアメリカの石版画が、本作においても参考とされている。

（松尾知子）

26　竹久夢二「港屋絵草紙店」

タイトルの「港屋」とは大正３年10月、日本橋呉服町に竹久夢二（1884～1934）とその最初の妻たまきが開いた店の名である。ふたりの「夢二式美人」と夢二本人が立ち並ぶ背景に、洋風建築や帆船、新内流しなど新しいものと古いものとを同居させ、港屋のコンセプト－来店者を未知の異国あるいは古き江戸へと誘う－を視覚的にアピールするものとなっている。シルエットを多用して画面をすっきりとまとめ、彩度を抑えた淡く甘い色彩が美しい佳品。

（西山純子）

32　北野恒富「廓の春秋　冬　鏡の前」

「廓の春秋」と題する春夏秋冬４枚の連作の一図で、北野恒富（1880～1947）の版画の代表作。運筆そのままのかすれを忠実に表した見事な主版と、ベタッと塗りつぶした色版の組み合せにより独得な味わいを持つ作品に仕上がっている。鏡の裏板部分の摺りに木目を残しているのも成功。創作版画と新版画の接点に位置するこのような作品もまた、大正期特有のものである。

（浅野秀剛）

曾我蕭白「山水図」（林和靖図）

伊東深水「多摩川原の夕」

長澤蘆雪「松竹梅図」のうち「松」

森谷利喜雄「塩竈一漁村」

千葉市美術館所蔵作品展

平成七・八年度新収蔵作品展（前期）

1997年 3 月19日発行

編集・発行　千葉市美術館